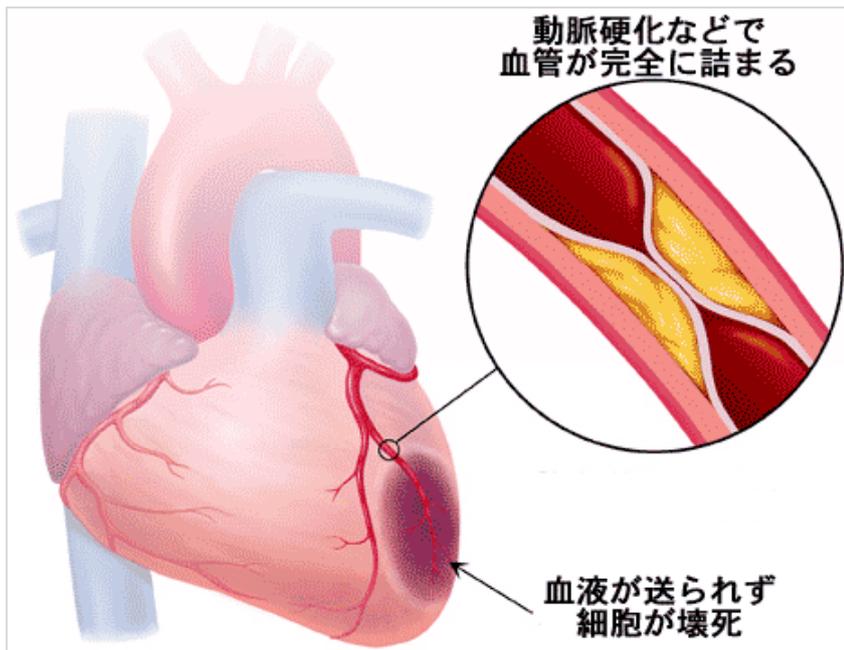


# 週刊 タバコの正体

タバコは血管にダメージを与え“動脈硬化”の原因となる事はすでに知ってもらいましたね。動脈硬化を起こした血管では血流が低下したり、詰まってしまふことがあります。そして血管が完全に詰まってしまうと血液が送られなくなり、その近辺の細胞は死んで(壊死して)しまいます。



背中の中の痛み「心筋梗塞」サイトから

皆さんには、そんな事が現実におきるとは想像できないでしょう。でも、この症状は案外多く発生していて、あろうことか心臓を取り巻く動脈が詰まったり血流が少なくなったりする事さえあるのです。もし心臓を動かさず動脈がこんな状態になると心臓の細胞が壊死し、全身に血液を送れなくなり命に関わる一大事となります。

このような病気は“虚血性心疾患”<sup>きょけつせいしんしつかん</sup>と呼ばれ、厚生労働省の発表によると、昨年(平成27年度)約7万人が死亡したそうです。



Minds ガイドラインセンターHP から

虚血性心疾患は、動脈が狭くなり血流が少なくなる“狭心症”<sup>きょうしんしょう</sup>、と完全に詰まってしまう“心筋梗塞”<sup>しんきんこうそく</sup>に大別されますが、ともに左図のように胸に激痛を感じる発作が起こります。

狭心症の場合は、安静にしたり薬をすぐ服用すればおさまるケースが多いようですが、心筋梗塞は時間が経過するほどに血液が流れなくなった細胞が壊死していくので、早く病院で手当てを受けなければ死亡にいたります。

じつは、タバコのパッケージには『喫煙は、あなたにとって心筋梗塞の危険性を高めます。』という警告が掲載されています。そんな警告が書かれている事に気付いていない喫煙者や、目にしても無視する人も大勢いるのですが、「ある日突然、胸の激痛とともに発作が起きるかも知れない。そして命を落とすかも知れない。」と冷静になって考えれば、タバコを吸い続ける事に不安を抱くはずです。対して、皆さんのように一生タバコを吸わない人たちは無用のリスクを負わなくても良いわけです。

産業デザイン科 奥田 恭久